

News Release



長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY



大阪大谷大学
Osaka Ohtani University

SATREPS

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム

令和3年5月20日

各報道機関文教担当記者 殿

令和3年度国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)に 金沢大学の研究が採択

このたび、本学は、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下、JST）の令和3年度「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）（※1）」の公募において、条件付きにて採択を受けました。SATREPS 提案課題の採択は、本学でははじめてになります。

JST「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム」
環境・エネルギー分野「地球規模の環境課題の解決に資する研究」

【採択課題の概要（条件付き採択時点）】

研究課題名：カンボジアにおける大気汚染リスク管理プラットフォームの構築

研究代表者名：古内 正美（金沢大学理工研究域 地球社会基盤学系 教授）

研究期間：5年間（2022年4月～2027年3月）

相手国名：カンボジア王国

相手国研究機関名：カンボジア工科大学（代表研究機関）、国立経営大学、健康科学大学、環境省

日本側研究機関名：金沢大学（代表研究機関）、長崎大学（共同研究者 鳥羽 陽教授）、大阪大谷大学（共同研究者 那須 正夫教授）

研究の概要：

本研究は、深刻な大気汚染問題を抱えるカンボジアからの強い要請を受け、カンボジア工科大学や環境省と協力して、大気汚染モニタリング網を整備し、持続的に「大気

汚染による健康リスク」を低減するための管理体制を構築するものです。これによって、持続可能な快適で質の高い居住環境の提供や、同国のエコツーリズムなどの観光産業の発展に貢献します。また、構築した大気汚染モニタリング網を持続的に維持管理する技術者や、観測データに基づいて最先端の研究を自立して行う研究者の育成を目指します。さらに、その技術者・研究者と協力して、PM2.5（微小粒子状物質）よりも小さく健康リスクが高い PM0.1 の実態解明、カンボジア周辺国と連携した大気汚染物質の広域的な影響の解明に取り組み、それらの成果を健康リスク低減につなげます。

【用語解説】

※1 「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」

科学技術と外交を連携し、相互に発展させる「科学技術外交」の強化の一環として、文部科学省・外務省の支援のもと、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と独立行政法人国際協力機構（JICA）が連携して実施する事業。開発途上国のニーズを基に、地球規模課題（※2）を対象とし、社会実装（※3）の構想を有する国際共同研究を政府開発援助（ODA）と連携して推進する。地球規模課題の解決および科学技術水準の向上につながる新たな知見や技術の獲得や、これらを通じたイノベーションの創出を目的とする。また、国際共同研究を通じて、開発途上国の自立的研究開発能力の向上と課題解決に資する持続的活動体制の構築を図る。

SATREPS

Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development の略称。
サトレップス。

※2 地球規模課題

一国や一地域だけで解決することが困難であり、国際社会が共同で取り組むことが求められている課題（環境・エネルギー問題・自然災害（防災）・感染症・食糧問題、生態系・生物多様性の保全、自然資源の持続可能な利用、汚染対策、気候変動への適応などの SDGs に対応するもの）

※3 社会実装

具体的な研究成果の社会還元。研究の結果から得られた新たな知見や技術が、将来製品化され市場に普及する、あるいは行政サービスに反映されることにより、社会や経済に便益をもたらすこと

条件付き採択

関係機関との協議内容や相手国情勢などにより新規採択研究課題の取り消し・内容変更の可能性があるため、令和３年度は協議・調整のための準備期間（暫定期間）として「条件付き」での採択となっている。

令和３年度「地球規模の環境課題の解決に資する研究」における採択までの経緯
公募期間……令和２年９月８日（火）～１１月９日（月）正午（日本時間）
面接審査日……令和３年３月２９日（月）

【本件照会先】

金沢大学理工研究域地球社会基盤学系 教授
古内 正美（ふるうち まさみ）
TEL：076-234-4646
E-mail：mfuruch@staff.kanazawa-u.ac.jp

【広報担当】

金沢大学理工系事務部総務課総務係
尾崎 慶子（おざき けいこ）
TEL：076-234-6821
E-mail：s-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp

令和3年度 採択研究課題一覧

			研究課題名（採択時） ◎：トップダウン型	研究代表者	所属機関	相手国	主要相手国 研究機関
1	環境・エネルギー分野	環境領域	気候変動適応へ向けた森林遺伝資源の利用と管理による熱帯林強靱性の創出	谷 尚樹	国際農林水産業研究センター	インドネシア共和国	ガジャマダ大学
2		環境領域	カンボジアにおける大気汚染リスク管理プラットフォームの構築	古内 正美	金沢大学	カンボジア王国	カンボジア工科大学
3		環境領域	天然ゴムを用いるグローバル炭素循環プロセスの科学技術イノベーション	山口 隆司	長岡技術科学大学	ベトナム社会主義共和国	ハノイ工科大学
4	環境・エネルギー分野	低炭素領域	◎再生可能エネルギー水素を用いた新しいアンモニア合成システムの研究開発	秋鹿 研一	沼津工業高等専門学校	南アフリカ共和国	ノースウエスト大学
5		低炭素領域	地中熱・地下水熱利用による脱炭素型熱エネルギー供給システムの構築	稲垣 文昭	秋田大学	タジキスタン共和国	科学アカデミー付属 科学・新技術革新開発センター
6	生物資源分野		デジタル基盤上のウシ体内フローラと草地管理の最適化による地域バリューチェーン創出プロジェクト	大蔵 聡	名古屋大学	コロンビア共和国	コロンビア農業・牧畜研究機構（AGROS AVIA）
7			バングラデシュ稲の安全性と高栄養価に貢献する育種および水管理法の確立と普及	神谷 岳洋	東京大学	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ農業大学
8			生物的硝化抑制（BN I）技術を用いたヒンドゥスタン平原における窒素利用効率に優れた小麦栽培体系の確立	飛田 哲	国際農林水産業研究センター	インド	ボーローグ南アジア研究所（BISA）
9	防災分野		気象災害に脆弱な人口密集地域のための数値天気予報と防災情報提供システムのプロジェクト	三好 建正	理化学研究所	アルゼンチン共和国	国立気象局
10			◎沿岸でのレジリエント社会構築のための新しい持続性システム	森 信人	京都大学	インドネシア共和国	バンドン工科大学

※研究課題の並びは、研究代表者名の五十音順です。

引用： <https://www.jst.go.jp/pr/info/info1510/index.html>